

平成19年3月9日

文部科学省初等中等教育局  
教科書課長 山下和茂様

社団法人 教科書協会  
会長 河内義勝

### 教科書用紙について（お願い）

教科書用紙は、学校教育の基本を担う教科書に使用される用紙として、品質には格別の配慮がなされております。その留意点として、

- ① 長期にわたり使用されることを前提とした堅牢性
- ② カラー印刷に十分に耐え得る印刷適性・印刷作業性
- ③ 十分な不透明性
- ④ 長時間読み続けても目の疲労の少ない柔らかな色相
- ⑤ 用紙の表裏差が小さい
- ⑥ チリが少ない
- ⑦ シックスクール症候群等化学物質過敏症への十分な対応がなされている

など、他の印刷用紙では求められないような厳しい品質が要求されています。そのため製紙メーカーにおいては、その要請に対応すべく、長年にわたり絶え間ない研究開発と改良が続けられ、現在にいたっております。

平成4年、リオデジャネイロで開催された第1回地球環境サミットを契機に、あらゆる分野について環境への配慮が要請され、教科書用紙につきましても、平成11年度用使用教科書からは、厳選した古紙を30%配合したいわゆる再生紙を全面的に使用いたしております。

ます。

製紙メーカーの情報によりますと、再生紙生産の状況が大きく変化しているとのこととして、それは下記のとおりであります。

従来、再生紙を生産するのに不可欠な古紙は、再生紙の生産増に比例して回収量も増加し、生産と回収がほぼバランスが保たれていました。ところが、平成13年頃から古紙の回収率が大幅に向上しているにもかかわらず、国内における古紙の利用率はほぼ横ばいという状況が続いております。これは、主に中国向けを中心とする古紙の輸出量が大幅に増加していることに起因しております。

国内の製紙メーカーは、古紙の必要量を確保するのが困難になると同時に、回収率が向上することに伴う古紙の品質劣化への対応を迫られております。

回収率が高くなることに伴い、従来は回収対象とならなかったような低品質古紙も回収されることになり、それが輸出のみならず国内製紙メーカーにも供給される、ということになります。

その結果、国内製紙メーカーは、低品質の古紙を使用して高品質の教科書用紙を生産せざるを得なくなっており、そのためには従来以上の薬品・電力等の使用や、新設備増強を余儀なくされ、その分、二酸化炭素の排出量増や排水処理薬品増につながり、環境負荷を高めているというのが実情です。

本来、「環境に優しい教科書用紙」を生産すべく始めた古紙利用の再生教科書用紙ですが、現状では、かえって環境に厳しい結果をもたらすという皮肉な結果となっております。

また、ここ最近の古紙品質低下は著しいものがあり、製紙メーカーは、上記の設備・処方による対応も限界に近づき、本来の要求品質を維持するのが極めて困難な状況になってきております。

上記の古紙事情のもと、最近では「古紙」一辺倒から、「古紙」と「環境に配慮したバージンパルプ（フレッシュパルプ）」の適切な配合による環境対応が一般的になってきております。

環境対応紙への指針ともいえる『「印刷・情報用紙」購入ガイドライン』（「グリーン購入ネットワーク」制定）で、従来は環境負荷の少ない用紙として「古紙配合率が高いこと」と規定されていましたが、平成 17 年改定で、『「古紙パルプ」に加え、「環境に配慮したバージンパルプ」を多く使用していること』と変更されております。

「環境に配慮したバージンパルプ」とは、下記の条件を満たしたものを指します。

- ①原料となるすべての木材等は、原料産出地（木材伐採地）の法律・規則を守って生産されたものでなければならない
- ②森林環境に配慮した「森林認証材」や「植林材」、資源の有効利用に資する「再・未利用材」等からつくられていること
- ③塩素ガスを使わずに漂白されたものであることが望ましい

以上の状況にかんがみまして、平成 20 年度以降の教科書用紙については、現在の厳しい品質基準を維持するとともに環境に配慮し、従来と変わらぬ製品を安定して使用するため、従来の古紙多配合（30%）から、「古紙」と「環境に配慮したバージンパルプ」の適切な配合による、「より環境に優しい用紙」への変更をご了承いただきますようお願い申し上げます。

以上の状況をご考慮いただきまして、是非ご検討いただきたくよろしくようお願い申し上げます。

以上